ふるさとの文化・歴史に触れてみよう！

史跡めぐり歩こう大会

（平成23年度、野田地区編）

- 先人が残した名所、旧跡を訪ね、ふるさとの文化や歴史についてもっと知ろう
- 郷土の景観や自然にふれ、ふるさとを愛する豊かな心を育てよう
- 体を動かして、健康増進を図ろう

日　　程

期　　日

○平成２４年２月１９日(日)

受　　付 …… ８：２０～８：５５

○ 出欠確認、資料配布

開　　会 …… ９：００～９：１０

○ 出水市教育委員会教育長挨拶

○ 行程説明、諸注意

○

スタート …… ９：１５

野田農村環境改善センター⇒熊陳馬場（庚申碑・緋寒桜並木・武家門・仁王像）⇒新城跡⇒亀井山城跡⇒桜ケ城跡⇒疱瘡墓⇒袈城跡⇒感応寺

○ 到　着 …… １２：１５

○ 閉会の挨拶

○ 解　散 …… （１２：３０）

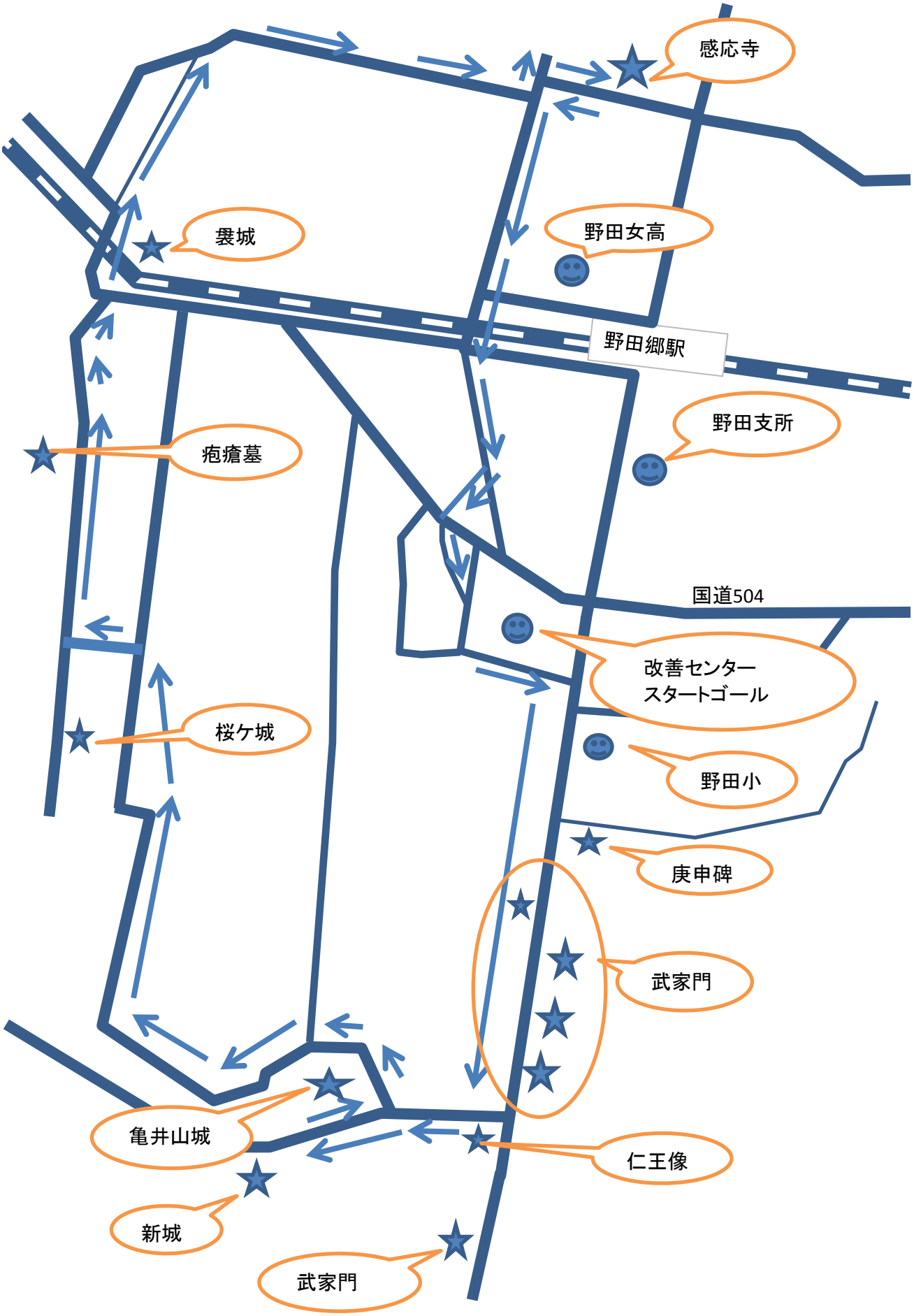
主　催　　出水市、出水市教育委員会

協　力　　感応寺

連絡先　　出水市文化町２３番地

出水市教育委員会生涯学習課　電話６３－２１０６　FAX６４－１１０５

歩こう大会コース図


感応寺
畏城
野田女高
野田郷駅
野田支所
疱瘡墓
国道504
改善センター
スタートゴール
桜ケ城
野田小
庚申碑
武家門
亀井山城
仁王像
新城
武家門

①　熊陳馬場周辺の文化財

●熊陳馬場（くまちんばば）

熊陳馬場は十三仏交差点から天神に至る１キロ余りの通りで、江戸時代は薩摩街道出水筋にあたり、歴代藩主の参勤主要道路の一つでした。

また、通りに面する小学校には、御仮屋が置かれ野田郷の郷士の居住地・行政の中心地でした

熊陳の地名の由来は、応永２９年（１４２２）に奥州家の島津久豊が木牟礼城の総州家の島津守久攻略のため、球磨人吉の相良実長に援軍を要請し布陣を敷いたことに由来します。この戦で総州家は滅亡し、山門院は、２５年間相良氏が統治することとなりました。

●庚申碑（こうしんひ）

庚申碑とは中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石碑のことで、この碑は享保４年（１７２９年）に建立されたものです。庚申信仰では十干･十二支の組み合わせにより６０日で一巡する庚申の日に、人体中の三尸虫が睡眠中に天上に昇って、天帝に人間の罪過を訴えると信じられていました。その虫が人体から出るのを防ぐために、夜を徹して仏教音楽や念仏行道を行うことが貴族社会において平安時代以来盛んになり、それに仏教・神道、また民間では待日(十五日・二十三夜待)が習合し、一般にも広まりました。

（昭和 61 年 4 月 1 日市指定文化財）

●武家門（ぶけもん）

野田地域には現在、５棟の武家門が残っています。そのすべてが、熊陳馬場にあります。

残っている門の形態はすべて薬医門という種類のもので、基本は前方（外側）に２本、後ろ（内側）に２本の４本の柱で屋根を支えます。特徴は、屋根の中心の棟が、前の柱と後ろの柱の中間（等距離）に位置せず、やや前方にくることです。したがって前方の２本の柱が本柱として後方のものよりやや太く、加重を多く支える構造になっています。

②　新城（しんじょう）

亀井山城に対して新城と呼ばれ、島津忠兼の居城であったと伝えられています。島津忠兼は薩州島津家第６代島津義虎の叔父に当たると言われます。現在は、若宮神社として島津忠兼を祭った神社となっていますが、社殿は元の曲輪（くるわ）を利用しており、土塁が社殿を巡っており、深い空堀で独立した曲輪となっています。

亀井山城と新城空撮

③　亀井山城（かめいやまじょう）

この城は、平治年間（1156～1159）に平種国が築いたと伝えられています。城の規模は大きく本城を中心に１４の曲輪で構成されており、最近の発掘調査で中世の皿などが出土しています。

専門家によりますと、保存状況も良く、北薩地方を代表する中世山城であると評価されており現在、保存に向けての調査を続けています。

（平成 17 年 1 月 10 日市指定文化財）

④　桜ヶ城（さくらがじょう）

亀井山城を守る一つの外城と言われており、本年確認調査を行った結果、土塁が巡る曲輪が確認されました。

桜ケ城の土塁

⑤　疱瘡墓（ほうそうばか）

この碑には、「浄天妙富日経尼観音経一萬巻、永禄九年丙寅十月龍雲」と刻んであり、西暦 1566 年に建立されたことがわかります。

碑の建立の前年、野田の領主であった島津忠兼が謀反の罪で薩州家の島津義虎に殺され、その後、悪疫（疱瘡）が流行し、多くの死者が出たとの言い伝えがあります。疱瘡で亡くなった方々を日経尼という女性が観音経を一万回唱えて供養したことがこの碑に示されています。

⑥　袈城（やんじょう）

亀井山城を守る外城の一つとされ、木牟礼城から米ノ津沖を望む高台にあります。専門家の意見によりますと土塁の前面に空堀を施す、鹿児島内でも屈指の豪快な中世城郭の土塁であるとのことです。

⑦　感応寺の文化財

●十一面千手観音・脇立四天王像

建久 5 年（1194 年）に創建された感応寺の本尊です。廃仏毀釈の際に多くの仏像が破壊されましたが、当時の人々によって大切に守られ現在に至っています。平成元年に国宝修理所京都美術院で修理が行なわれた際、文安 2 年（1445 年）に定朝三派（慶派、院派、円派）の院派の仏師院隆によって作成されたことが判明しました。

（昭和 36 年 6 月 17 日県指定文化財）

● 絹本著色雲山和尚像

雲山和尚は島津貞久公(５代）の命を請けて感応寺の復興にあたった中興開山で、讃文中には、足利尊氏公が和尚を称えた（さぞなげに都の遠き山の端に曇らぬ月のひとりすむらむ）の和歌も書かれています。10 代徹堂和尚の時代に作られたものであり、県内最古の頂相（禅僧の肖像画）です。

（昭和 56 年 3 月 27 日県指定文化財）

● 感応寺五廟社

五廟社とは、島津初代から 5 代までの墓のことで、初代から 4 代までは鎌倉時代、5 代は南北朝時代初期に建立されました。薩摩藩 26 代藩主斉宣が石塔に廟堂を建立しましたが、現存していません。廃仏毀釈の際は法名を神名に変え、明治 8 年に現在の形となりました。明治 13 年に感応寺復興以後は寺で管理しています。寺では毎年 7 月 17 日に六月灯を執り行い、島津 5 代の慰霊を行なっています。

（昭和 61 年 4 月 1 日市指定文化財）

● 感応寺の仁王像

感応寺代 28 代直応和尚の時、堀兵左ェ門からの寄贈で、寛延 4 年（1751 年）に建立しました。石像の密迹金剛力士像（右を那羅延金剛ともいう）仁王は仏教を守る神としてインドの 16 大王に形どった金剛力士で寺の門に建てられています。後背に熊野権現とあるのは、廃仏毀釈の法難を避けようとする偽装ではないかと言われています。

（昭和 61 年 4 月 1 日市指定文化財）

● 感応寺のソテツ

このソテツは、永禄 10 年（1597 年）に感応寺の第 18 代茂林和尚が阿久根の楞厳寺に隠居中、薩州島津家 6 代義虎の文船使者として琉球に赴いた際、帰りに中山王から贈られたもので、葉の付け根の切除跡から推測しても 400 年前後の樹齢と考えられ、歴史的背景もあり、植物学的観点から考察しても価値の高いものです。

（平成 13 年 7 月 10 日市指定文化財）